

## 基本的考え方

公共、民間を問わず公益的な建築物には、日常生活や仕事の場所である共同住宅、商店、金融機関、事務所、学ぶ場である学校やスポーツ施設、文化・社会活動の場である映画館、娯楽施設、ホテルなどがある。こうした公益的建築物は、県民が安心して生活し、積極的に社会参加ができるバリアフリー社会の基盤となる役割を担うものであり、非常に重要な役割を持っている。

したがって、建築物を設計・監理・施工する者は、高齢者、車椅子使用者、視覚障害者、聴覚障害者、妊婦、子ども等多様な身体特性を有する人々が社会を構成していることを十分認識する必要がある。その上で、建築関係者はそれぞれの身体特性を把握し、専門的知識を活かしながら、積極的な発想のもと、すべての人が安心して快適に利用できる良好な社会資本としての建築物を作っていく責務がある。

## 設計のポイント

### 1 基本計画での検討

敷地の周辺状況や周辺施設との関係性、敷地内での位置・規模・利用者動線、建築物内の機能及び配置、利用者動線等を検討する基本計画段階で、単純でわかりやすいバリアフリー動線の連続性、高低差の処理等のバリアフリーの基本事項を十分検討し、対応することが重要である。こうした基本設計段階での検討が、手すりの設置、スロープの整備等部分的な設計に大きい影響を及ぼすことを認識する。

### 2 バリアフリー整備の一般化

バリアフリー整備を特別のこととして考えるのではなく、設計当初から一般的な整備として取り扱う。例えば、玄関までのアプローチを階段とスロープで別々に経路を設けるのではなく、誰もが一緒にアプローチできる通路となるよう外構全体で設計するなど、総合的な設計を行うことが大切である。バリアフリー整備の一般化は、結果的に建築物のメンテナンスコストやライフサイクルコストを軽減していくことにも通じる。

### 3 特定対象者のための設計

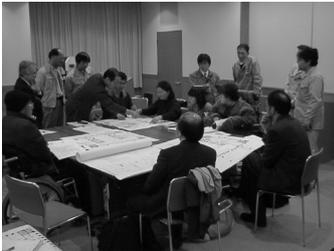
一方で、利用者が特定（限定）される建築物、設備では、利用者の身体特性に対応した設計上の工夫が必要である。利用者の身体特性や動作方法が、多様であることを認識し、特定される利用者等とコミュニケーションを行いながら、使い勝手の良い施設を模索する必要がある。

### 4 整備基準や事例の取扱い

整備基準で示す基準寸法などは、必要条件ではあるが十分条件ではないことを認識し、数値のみを運用することは避けること。逆に、「なぜ、こうするのか」という基準の意義や、施設及び利用者の身体特性を十分理解することにより、建築関係者自らがより良い事例を作り出していくことが重要である。

## 5 利用者や専門家の意見活用

基本計画から詳細設計、施工などの各段階において、多様な身体特性を有する利用者や専門家等から意見を聞いたり、プロトタイプモデルで検証を行うなどして、設計に反映していくことが、空間の質を高める上で重要になる。また、完成後も実際の使い勝手について検証を行い、フィードバックさせていくことが重要である。



ユーザーと検証しながらの  
設計フロー



一次モデルによる検証



現物モデル（二次モデル）  
による検証

## 6 目的地までの誘導

視覚障害者や高齢者のみならず、初めて施設を利用する人も安心して、迷うことなく目的地の場所に行くためには、自分の位置や方向を含めてわかりやすい動線計画と空間把握のための工夫が必要である。その上で、サイン計画等では、人間の行動特性に基づき、的確な場所でわかりやすく情報提供を行う必要がある。同時に、視覚障害者に配慮した案内板や手すりの点字表示、国際化に対応する情報提供を行い、あわせて非常時の安全性にも配慮する。

## 7 気候・風土への対応

本県は、全国的にみても降雨日数が多く、また、冬期には降雪・積雪があるのが特徴である。建築物についても、こうした気候や風土等、地域性に配慮した対策を図る必要がある。例えば、施設の構内通路、駐車場から出入口までのアプローチ、出入口などには、屋根またはひさしや側壁を設置するなどの対策を図る。

## 8 景観・環境との調和

バリアフリーを機能として満足しながら、デザインとしても美しく融合させることが、バリアフリー・デザインである。地域固有の美しいまちなみの形成や周辺環境との調和を図りながら、バリアフリーを積極的に取り入れ、より高いレベルのデザイン性を追及していくことが、建築関係者に求められる大きなテーマである。

## 9 福祉用具や設備の提供

実際に施設を円滑に利用する際には、車椅子利用者も利用できる家具や機器の設置が重要となる。また、水周り設備（便所、浴室等）や昇降・移動設備の研究も進み、近年、使いやすいものが商品化されている。本手引きでは、詳細な紹介はしていないが、こうした福祉用具や設備機器の情報も把握し、きめ細かな設計を行うことが重要である。



楕円形と螺旋の軌跡によって構成された  
建物、階段、傾斜路が洗練されたデザイン  
として組み合わせられている例である。ロ  
ンドン・シティ・ホール・イギリス